

後期の始まり

10月15日(水)後期始業式を行いました。無言で速やかに体育館へ入館し、予定の5分前には整列後、静かに座って開始を待っている状態でした。新学期スタートの引き締まった気持ちが伝わってきました。



校歌斉唱 はつらつとしていました

生徒代表の言葉

後期の開始に当たり、3年濱崎いほりさんが、生徒代表の言葉を述べました。

厳しい暑さも和らぎ、爽やかな涼風と校舎に響く歌声に、秋を感じる季節となりました。今日は、後期始業式。私達の物語の後半が始まる日です。皆さんは、どんな一歩を踏み出そうとしていますか。

前期では、附中祭「春」や中総体・コンクール、日々の実行部活動や授業の中で、一人ひとりの輝きが無数に繋がることで、かけがえのない「ONE PIECE」が形づくられ、多くの感動を共有してきました。その中で、リーダーとフォロワーの関係性や学年・学級の垣根を越えた団結力がより深く、太くなったことを感じています。一方で、1列歩行の徹底や時間に関してのメリハリ等の課題は、この附属中の根深い問題として、なかなか解決されずに残っています。

私は、これらの課題を解決し、成長するために、後期では、物事を自分事として捉え、何事にも率先して動く、個人としての力をより伸ばしていくべきではないかと考えています。

ここで一つ質問です。みなさんは花を育てたことはありますか？小学校の頃にはアサガオ、中学校では技術の授業で菊を育て、花が咲く過程を観察したことがあると思います。

私は、この1年間 生徒会長として全体を俯瞰する機会を得て、附中生の成長の様子は、花が咲く過程によく似ていると感じました。

花が咲くには、種子が必要です。この種子は、誰もが持っている「こんなことをしたい」や「あんなふうになりたい」という気持ち、つまり自分の夢や目標に向かうための原動力の塊です。この種子は養分を吸収しながら、土を跳ね除け、根や茎を伸ばしていくことでやがて花を咲かせます。これは、私達が、仲間という存在を養分として糧にしながら、原動力という種子をもとに果敢に挑戦を重ね、自分という色鮮やかで個性豊かな花を咲かせるのと同じです。この花こそが、夢や目標を体現した、ありたい自分の姿そのものなのではないでしょうか。

また、一つの花の成長に呼応するように、一人ひとりの挑戦と勇気が周囲の変化を呼び、互いにいい影響を及ぼすことにもなります。

このような成長の過程の中で、今の自分がどこにいて、何が必要なのかを考えることは、ありがたい自分やよりよい学校の姿を模索する私達にとって大切なことです。

しかし、理想とする花を咲かせるための道のりでは、必ずしもすべての努力や行動がすぐに結果に結びつくわけではありません。どんなに努力を重ねても納得する結果を得られなくて挫折したり、自分がやっていることがゴールに向かっていて不安になったりすることは、誰もが経験することです。ここにいる多くの人が、感じていることだと思います。けれど、その一つ一つの苦い経験や嬉しい経験が、今の私を形づくり、私だけの花を咲かせるのです。きっとその花が束となって未来をつくり、ありたい自分を輝かせてくれます。

そして、これから浜田会長を中心に新たな生徒会での学校づくりがスタートします。この一年間で、皆さんには附中PRIDEが染み渡り、一人ひとりに、学級に、学年に、そして学校に、確かな「ONE PIECE」が刻み込まれ、種子を育てる土壌ができあがりました。だからこそ、これからの附中祭「秋」合唱フェスティバルや百日祭、卒業式などの行事や学校生活の中で、仲間と挑戦を重ねることで、原動力という種子から、自分だけの花を咲かせてほしいと思います。

特に、3年生は附属中で過ごす最後の半年間になります。あたりまえの日々に感謝をしながら、新たなステージへ進む準備をするとともに、後輩に背中を語るよう日々邁進し続け、これからの新たな附属中を全力で支えましょう。

1、2年生は附中丸の舵取りを担う学年として、自信を持って前へ進み続けてください。どんな困難も私達第76回生が、必ずサポートします。

これからきっと、一人ひとりの原動力という種子が互いに高め合うためのエネルギーとなり、個人としての力が伸びることで、たくさんのかげがえのない花が咲いていくことでしょう。そして、最初に述べた1列歩行の徹底や時間に関してのメリハリ等の附属中の根深い課題を私たちの力で解決し、後期の最後に控える卒業式では、最高の笑顔で彩られた430の個性豊かな花で、この体育館をいっぱいにしましょう。私達なら、今までにないほどに輝かしい花を咲かせることができるはずです。

これからも挑戦と自分自身との対話を重ねながら、仲間とともに歩み続け、一人ひとりが輝く最高の附中を、青春を、つくりあげていきましょう！



(裏面もあります)

嬉しい探しの実践を

後期始業式では、エレナ・ポーター作の童話「少女ポリアンナ」を紹介しました。主人公のポリアンナは、どんな状況にあっても、まず「私、よかったと思うの！だって、〇〇だから。」と、「嬉しい」を見つけていく「嬉しい探し（原作ではbeing glad game）」を実践します。そして、前向きに生き、それが周囲の大人の価値観や思い込みを変え、やがて周りを幸せにしていける話です。しかし、彼女は、直面した状況で小さな良い面だけに注目し、負の側面から目を逸らしたり、現実から逃避したりしているのではなく、また、自分より不幸な人を見つけて、「あの人よりは幸せ」と考えているわけでもないのです。自らが置かれた絶望的な状況と向き合い、受け入れつつ、その上で、その局面を打開し前進していこうとしているのです。是非読んでみてほしいと思います。

ところで、ケンブリッジ大学のバーバラ・サハキアン教授の研究によると、人間は1日のうちにおよそ3万5千回、何かしらを選択し、決断しているそうです。そして、この「選択する」という行為はAIにはできないそうです。

「何が自分にとって幸せなのか」「何が正しいのか」を正しく選択し、幸せな人生を送るには、毎日の生活の中で「選択する力」を磨いていくことが大切です。「嬉しい探し」は、選択する力を鍛える方法の一つだと考えます。

後期、皆さんが「嬉しい探し」をしながら、自分自身を正しく理解し、前進していくことを期待しています。

11月の予定

- 4日（火） 実行部会
- 6日（木） 県中総体駅伝競走大会
県教育センター研修授業公開（国語）
- 7日（金） 県教育センター研修授業公開（理科）
- 10日（月） 県教育センター研修授業公開（社会）
- 11日（火） 1・2年面談、3年三者面談（～14日、17日）
- 18日（火） 附属特別支援学校との交流（1年生）
- 19日（水） 国民文化祭、県中文祭（～20日）
- 20日（木） 附中人権の日・PTCC
- 21日（金） 参加観察実習
- 27日（木） 表現探究校外学習（1年生）

